県審判委員会

# 2019

## 中ブロック　都市協会合同審判トレーニングセンター活動報告

共催協会：明石・淡路・北播磨・神戸市　各サッカー協会　審判委員会
開催日時：2019 年 11 月 16 日（土）　午前 9 時から午後 5 時
会場：兵庫県立明石城西高等学校グランドおよび講義室

**目　的**

**内　容**

**・今後、県割当や市内大会等で活躍できる審判員の育成**

**・競技規則の理解と技術向上に関する実技指導**

**・インスタラクターの育成・強化と資質向上**

**・協会間の連携強化と情報交換**

**【今年度のテーマは「副審」とし、その任務と役割を考え、実践する。】**

【2 部構成で開催】

午前・・・講義中心に競技規則の理解を深める。
① テーマ「副審」　淡路協会　３級審判員　米田年孝氏
② テーマ「第 11 条」　北播磨協会　２級インストラクター　三木章嗣氏

午後・・・実技中心に試合等を活用し、実際どこまでできるのかを検証。
① プラクティカルトレーニング　神戸協会　２級インストラクター　橋本滋氏
② 二種（高校生）トレーニングマッチへ審判を割当
③ 試合後、インストラクターによる振返りを実施
まとめ　３級インストラクター浦元雄一郎氏
④ 総括　明石協会　２級インストラクター　野上貴史氏

# スケジュール

| 11月16日(土)　8時30分～17時 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 時間 | | 内容 | | 運営担当 |
| 9 | 9:00 | 審判員・インストラクター集合(会場設営)／スタッフ打合せ | | |
| | 9:30 | 挨拶・研修内容説明・自己紹介 | | |
| | 9:50 | プレゼン | 米田 審判員 「副審」 20分 | 淡路 |
| 10 | ～10:20 | | 質疑応答　10分 | |
| | 10min | 休　憩 | | |
| | 10:30 | プレゼン | 三木 INS「第11条」 35分 | 北播磨 |
| 11 | ～11:45 | | まとめ、発表、質疑応答　40分 | |
| 12 | 35min | 昼食・休憩・着替え・PT準備・R打ち合わせ | | |
| | 12:20～ | PT | PT準備(生徒10人と打ち合わせ) | 神戸 |
| | 12:30 | | PT＝「ラインアウトの見極め/オフサイド」<br>橋本/小河/竹内　INS(受講審判員全員参加) | |
| | ～12:50 | | PTまとめ・終了 | |
| | 10min | | 試合準備 | 明石 |
| 13 | 13:00～ | | トレーニングマッチ<br>明石城西高校　対　明石清水高校<br>35分×2本<br>R:松本　AR1:藤原　AR2:佐藤<br>R:鳴海　AR1:小林　AR2:米田<br>シャドーR=野上 | |
| 14 | 80min | 試合 | | |
| | 14:20 | | | |
| | 30min | 移動・休憩・着替え・振り返り準備 | | |
| 15 | 14:50 | 振返り | 第一試合 振返り　15分 | 興津秀和 |
| | 15:05 | | 第二試合 振返り　15分 | 竹内葉二 |
| | 15:20 | | 第一・二試合 振返り補足　15分 | 浦元雄一郎 |
| | 15:35 | 総括・クロージング | | 野上貴史 |
| 16 | 16:00～ | 参加者解散、役員・スタッフ振返り、事務連絡、順次解散 | | |

# 具体的内容と各項目の報告

昨年度から県審判委員会主導の元、13 都市協会を「東・中・西」の 3 ブロックに分け「合同審判トレセン」を開催しました。
我々、中ブロック（神戸・北播磨・淡路・明石の 4 協会で構成）は神戸に続き、今回 11 月 16 日に明石で研修を行ないました。
ついては、その内容をここで報告させていただきます。

## ＜開会挨拶と自己紹介＞

明石協会の溝口会長がお越しになり、平素のお礼ならびにご挨拶をいただきました。
続いて同協会審判委員長の神田氏より、会場の雰囲気を和ませるようボールを使って自己紹介をしました。
ルールとして、″ボールを受けた人が①所属協会名②氏名③今日の意気込みを話し、次の人へボールを投げ渡す″といったものでした。但し、一度自己紹介した人には再度パスすることができない制約があった為、常に顔と名前と立ち位置は覚えておく必要あり、ゲーム性緊張感が高まる中、楽しく紹介し合うことが出来ました。

フラッグを持ち、熱弁する米田審判員

## ＜プレゼンテーション 1＞

事前に指名した審判員に今回県下統一テーマである「副審」に関する内容で 20 分間のプレゼンテーション（以下、「プレゼン」と表記）を行っていただくよう依頼。
講義 1 は淡路協会の米田 3 級審判員が担当され、打ち合わせの重要性を説きつつ自身の失敗談（主審との差し違い、オフサイドの判定等）を織り交ぜ、それをどう改善していったかの経緯を競技規則と照らし合わせながら説明がありました。
また時折ゼェスチャーや旗を持って実演するなど、非常に分かり易く興味が湧くプレゼンとなりました。

## ＜プレゼン 2＞

「第 11 条」プレゼン担当
三木インストラクター

次に「第 11 条オフサイド」のテーマのもと、北播磨協会 2 級インストラクターの三木氏より、動画を用いて参加者全員で考察（どこを見て、どう判定すべきか）・検証しました。

何シーンかある中の 1 つに、シュートが撃たれた際、明らかにオフサイドポジションにいた攻撃側競技者が GK 近くでプレーに関わるような動きがあり、結果ゴールインと判定した映像（この映像の副審はフラッグアップしていた）が流され、これを見た参加審判員から「GK の視線を遮ったのでオフサイドではないか？」という意見が出されました。

やや上から撮影された映像では、主審の見ている位置や角度も良く、「オフサイドポジションにいたが、妨害行為やその立ち位置によって視線を遮ってはいない。」と判断し、映像内でも副審とも協議している光景が映し出され、最初のシグナルと同じゴールインとして最終判断・決定したことを全員で確認することができました。

またこの場面での副審の対応として「フラッグアップすべきか・すべきでないか」も追加で話し合いましたが、徐々に白熱した討論となり、講義 2 内で次に予定していたワークショップを行なう時間がなくなった為、泣く泣く割愛することとなりました。

最終決定権は主審にありますが、やはり副審の任務もそれと同等の責務を担っていることを改めて感じることができた講義となりました。

## ＜プラクティカルトレーニング＞

午前の部で学習した内容をプラクティカルトレーニング（以下、「ＰＴ*」と表記）で活かせるかどうかを実践しました。　※プランニングシートは最終頁に掲載

*PTとは…【試合で起こりうる一場面を切り取り、それを繰り返し再現する中で実際のレフェリングと同様の緊張感を持ちながら審判員が監視・判定すべきことを習得する反復トレーニング法】

事前にデモストレーターの城西高サッカー部員の皆さんと打ち合わせを行い、神戸協会の橋本インストラクターがリーダーとなって、タッチジャッジに関するPTが始まりました。

審判が監視すべきこと、判断すること、やるべきことを確認しながら何度も繰り返し実践。差し違いがないようにするためには？最後にボールに触れた競技者がどちらかが微妙な場合の対処法、オフサイドラインキープをしながらニアサイドであるタッチジャッジの判定（二方向を同時に監視する際の視野の確保）等、このトレーニングを通じて副審としての役割を改めて認識することができました。

続けて、オフサイドのPTも行ない、オフサイド or ノットオフサイド（オンサイド）の判定はもちろんのこと、プレーにかかわっているかどうか、守備側競技者がプレーした場合の対応、２列目からの飛び出し、ノットオフサイド時の副審の対応（止まらずボールを追い続ける）等、数パターンをランダムに再現し、トレーニングを重ねました。

間違いや指摘項目があれば、その都度インストラクターは審判員に問いかけ、説明･修正･理解するよう進めていきます。

数多くやっていく中で終盤にはより適切に判定・処理できるようになり、一定の成果が出たように思います。

また、これは審判のスキルアップだけではなく、指導する側も①目的と成果②表現/伝達力③指導力④理解度まで、きちんと全員に正しく伝わっているか、も試されるものでもあります。

＜実戦研修：二種トレーニングマッチ（以下、「TM」と表記）＞

二種チーム協力のもと、ＴＭへ審判割当(35×2)をしました。

各協会から１名づつ割当し、今回はＴＭということで両チームの監督には 28 分頃からシャドーレフェリー（指導役の第二主審）が入る旨を伝えており、主審のすぐ傍で声掛けしながら次の争点への移動、予測した動き、見る角度と距離等の助言を元に試合をこなしました。

経験の浅い審判員には慣れない動きであったとは思いますが、「次に何が起こるか、その為にどこへ行くべきか、どのタイミングで動き出すのか、どこから見て判定するのか」を感じてもらえたと思います。

## ＜振返り：試合後の分析・評価＞

（上）振返り風景　と　ハンドを実演（下）

TM が終わり講義室へ再度集まりました。インストラクターと割当審判員が向き合って振返りと意見交換を行いました。

まずは試合結果（得点・勝敗・懲罰有無・重要事項報告の有無等）の確認を行い、試合に臨むにあたって各審判員からの目標に耳を傾け、それに関して自分がどこまでできたかを確認。

今回の目的の１つとして比較的経験の浅いインストラクターに良かった点･課題点を挙げていただき、その後にベテランインストラクターから指導を受ける形を取りました。試合を振り返る際、指導側は色んな事を伝えたく時間制限のある中でどうしても発言が多くなってしまい、審判員の声・考えを聞けない˝やや一方通行的˝な状態になってしまいがちです。本来であれば「考えさせる・引き出す・導く・理解する」ことを目的としていますが、中々できていないことに直面していることから今年度関西インスタラクタートレセンに研修参加している野上氏より、コーチングとティーチングとの違いやチュータリングの説明をしていただきました。

また試合振返りの総括として浦元インストラクターには、試合中に起こったハンドの反則と空中での競り合いに関する判定についてより理解を深めるために、スタンツ（小芝居形式）にて全員の前でその状況を再現しました。

ハンドの反則については、「どこにどう当たったのか、主審と副審の位置、ファウルサポートをする場合の対処法、競技規則の改正部分の認識合わせ」も確認しました。

空中の競り合いでは一見良くあるやや覆いかぶさるような場面・接触がありますが、

「ボールの優先権や競技者間の距離・スピード・強さ、接触部位」を考慮して判定をして欲しい、とのアドバイスがありました。
（今回の事象 → 既にボールの落下地点を予測して陣取っていた競技者が垂直に跳んでいる中、後ろから走ってきた競技者が斜め前にジャンプして勢いある状態で空中で接触したシーンを回顧し、その力加減がどうプレーに影響したかを考えた上で判定をすべきであることを説いた。）
昨今、ビデオ分析が多くなっていますが、やり方によっては立ち位置を変えアングルに変化を生み出すことで見えてくる、スタンツの良さが出た一幕でありました。

## ま と め

振返り→閉会の挨拶が終わり、全カリキュラムを消化しました。
収穫は、①各都市協会から選出された審判員の現状スキルの確認ができた②都市委員長部会で決定したテーマ「副審」に絞ったことで競技規則の理解が深まった③近隣協会の活動（トレーニング方法や指導の仕方等）を垣間見ることができた④今後より活躍が期待できるインストラクターを発掘することができた⑤合同審判トレセンの定着化が進んだ。
一方、課題としては①インストラクター不足を痛感②時間管理の大切さ（準備していたワークショップが質疑応答で時間を割いた為、割愛となった）③参加審判員を募集した際に中堅層が薄いことが判明した④主催協会となった際の試合設定に苦慮している等、改善の余地が沢山あることも認識できました。

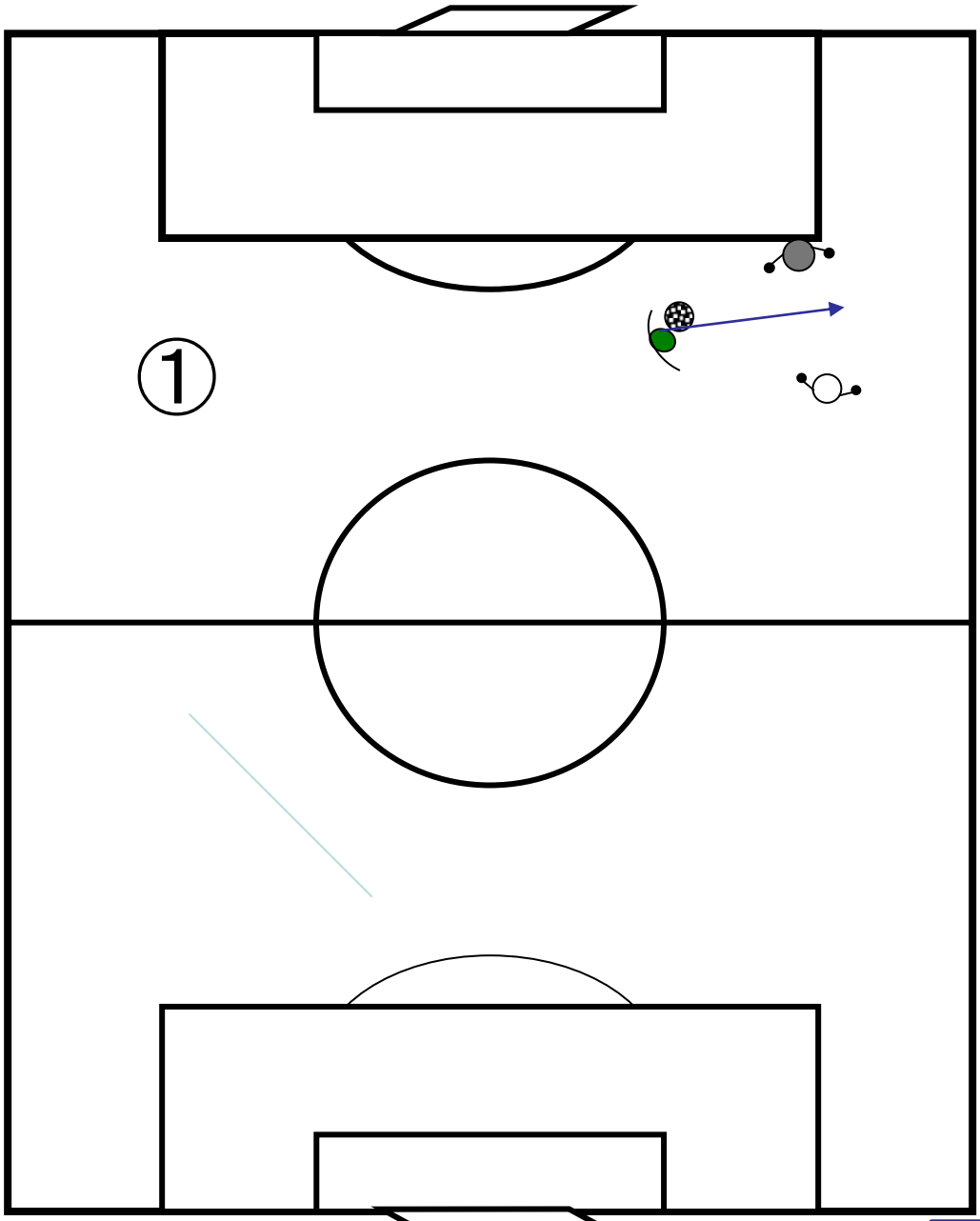
上記の通り成果・課題点も多々ありますが、来年は１つでも改善できるよう努めたいと思っています。
我々、審判委員会としても少しずつではありますが、兵庫サッカーの発展の一助となるようまた審判員・インストラクターとして心身成長できるような活動を進めてまいりますので、今後も引き続きご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上、「合同審判トレセン」の報告といたします。

４協会合同トレセン　審判委員会一同

【プラクティカルトレーニング　プランニングシート】

# テーマ　副審




R　GK　FW　DF　インスト

＜目的＞ ラインアウトの見極め

＜審判員が監視すべきこと＞

・出たかどうか

・最後に触れたのがどっちか

・

＜審判員が行うべきこと＞

・

・正しいポジショニング

・明確なシグナルとフラッグテクニック

・

＜デモンストレーターへの具体的な指導内容＞

・ライン際で自然な攻防から、

・レフェリーに近づいていく

・ワンタッチありで出す

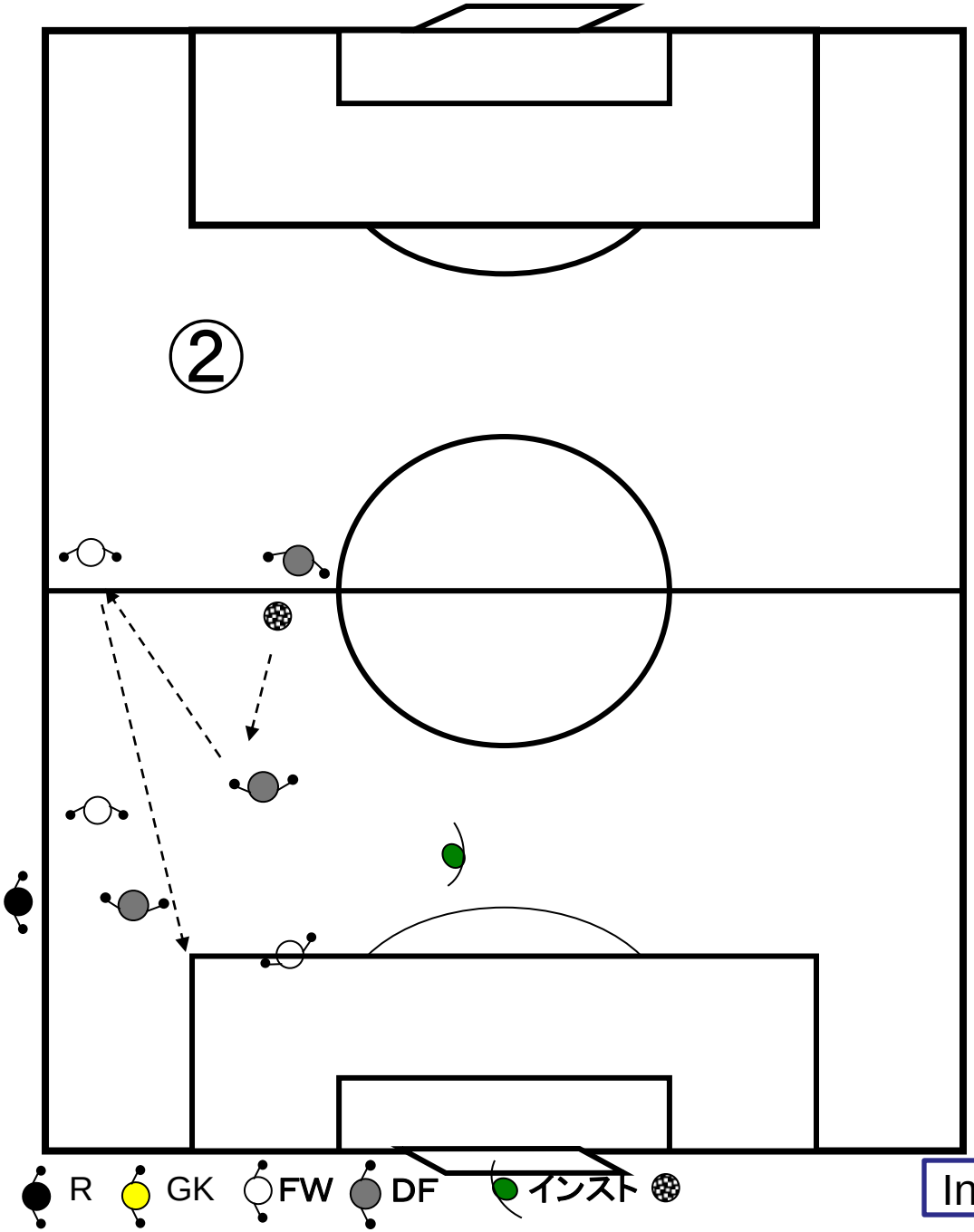
・Rがゴールラインまで走るように蹴り出す

・浮き球でタッチを割るように蹴る

などの変化をつけていく

Ins名（　橋本　）実施日（　19.11.16）

【プラクティカルトレーニング　プランニングシート】




# テーマ　副審

＜目的＞
オフサイドの見極め

＜審判員が監視すべきこと＞

・オフサイドポジションにいるか

・ボールの出るタイミング

＜審判員が行うべきこと＞

・オフサイドラインのキープ

・オフサイドの判断

・明確なシグナル

＜デモンストレーターへの具体的な指導内容＞

・出し手はボールの速さとタイミングに変化をつけて

・DFはラインンの上げ下げ、最初はゆっくり

・FWは自然な動きから、慣れてきたら戻りオフサイドや

2列目の飛び出し、オフサイドポジションだけどプレーしない

などを演出してみる

・

Ins名（　　橋本　　）実施日（19.11.16）